

航空機一筋 地に足をつけた新規参入のために

日の丸ジェットMRJは、経済産業省が旗振り役となり、三菱重工を主体に事業化を決めた国策プロジェクト。三菱重工は日本の航空機産業を語る上で、極めて大きな存在だ。航空システム研究(名古屋市緑区)の炭田潤一郎社長(67)はその三菱重工OB。33年間、航空機開発に携わり、西日本工業大学で教授として航空宇宙工学などを教えた。MECT2009では「航空機産業の現状と今後～地に足をつけた新規参入のために」と題し10月16日、特別セミナーで講演する。



西日本工業大の研究室で

ベンチャーを昨年6月に設立されました。

新規ビジネスとして「航空宇宙産業アドバイザー事業」を始めました。中部地区で航空機産業の振興機運が高まっているのに対応したかったのです。航空機産業への参入を目指す中小企業や、航空機関連企業の誘致を図る自治体に、現状や航空機の生産工程などのセミナー・勉強会を開き、航空機産業の現状や将来の見通し、航空機機体や部品の生産工程などを教えることができた、と思いました。

新規参入を目指す中小の中には、中途半端な知識で参入しようとする企業もあります。

やってみて、そんな簡単じゃなかった……ではね。航空機産業に中小が参入したり、自治体が振興できるよ、できるだけ正確で詳しい最新情報の提供を心がけています。だからMECTの講演の副題も「地に足をつけた」にしました。中小の個別のコンサルティングにも応じます。

三菱重工ではどんな仕事を。

日本・航空自衛隊の高等練習機であるT-2、支援戦闘機F-1の開発設計チームASTETに入り、その安定操縦班で空力特性を含めた機体形状設計をしました。操縦系統のハードウェア設計に初めて関

係したのが、STOL(短距離離着陸)飛行実験機飛鳥です。F-15配備に伴いリタイヤした「最後の有人ジェット戦闘機」QF-104Jは日米共同開発で、全機どまどめしました。F-1の後継機F-2では、システム技術とプロジェクト業務とまどめに関与しました。

航空機一筋ですね。

三菱重工の名古屋航空機製作所に24年間、本社が5年間、関連の中菱エンジニアリングに4年間でトータル33年勤務しました。この間、開発機体プロジェクトはT-2/F-1、QF-104J、F-2、維持設計機体がYS-11、C-1、C-1QSTOL、F-4、F-15、B-767、B-777にも参画しました。MRJでいえば、戸田雄前社長は重工の後輩になります。その後、西日本工業大学機械システム工学科に7年間勤務し、昨年、航空システム研究を立ち上げたわけです。

落ちない飛行機、がテーマですか。

落ちない飛行機とは、ハード的にもソフト的にも超高信頼性の作動を行うことができる、結果的に極めて落ちにくい飛行機システムをもったものを称しています。航空機は、機体だけでは飛べません。パイロットは必要ですが、航空交通管制、運航管理、機体整備等々で数多くの分野が絡み合って飛んでいま

落ちない飛行機をつくりたい……



PROFILE

MECT・特別セミナーで講演
すみた・じゅんいちろう 久留米大
附設高から九州大へ、1968年大学院航空工学専攻修士課程修了。西日本工業大では飛行力学、飛行制御システム工学、航空宇宙工学概論等の航空関係以外に電気・電子工学、情報工学、メカトロ科目、ロボット工学制御工学、電子回路等を教えた。論文・著書は落ちない飛行機、高信頼性飛行制御システムなどの分野で多数。米国無人機学会(AUVS)論文賞受賞(93年10月)、日本防衛装備協会賞受賞(94年11月)、工学博士。技術士(航空宇宙部門-No.29418)。日本航空宇宙学会、AIAA(米国航空宇宙学会)、日本技術士会所属。趣味は比較文化論、JAZZ鑑賞、テニス、ゴルフ。特技は 小型飛行機操縦、スキー1級、無線技士。福岡県田主丸町出身。MECT特別セミナーでの講演は10月16日、午後1時から。

航空システム研究
住所:名古屋市緑区池上台3-93-11
電話 & FAX :052-891-5536

す。すべての分野が正常に機能し続けて初めて、高信頼性システムとなるし、それが続けば落ちない飛行機となるわけです。

夢を喰って生きていける、とか。

高度に安全な航空機システムの創生に寄与したい。無人機を身近なものにし、だれでも運用できる実用的小型無人機を送り出したい。成層圏人工衛星や大型無人貨物機とかのプロジェクトを興したい。

安全確実な航空機設計の考え方をいろんな分野の方に知って欲しい、という願いもあります。



炭田さんが三菱重工時代に開発にかかわったT-2(防衛省HPより)